

(様式1)

平成30年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

| | |
|--|---|
| (整理番号) 063 | 提案機関名 環境農政局農政部畜産課 |
| 要望問題名 酪農現場におけるATPふき取り検査の活用方法の検討 | |
| 要望問題の内容 【背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等)】 食品製造や医療分野では、作業環境や器具の清浄度の判定にATP検査が広く利用されている。ATP検査は検体表面を綿棒でふき取り、簡易、迅速かつ客観的に清浄度の判定ができることから、畜産領域でも衛生状態の評価に利用することが期待されている。すでに、畜産技術センター普及指導課においてATP検査を活用した搾乳器具の管理の改善が取り組まれているが、標準的な利用方法は確立されていない状況である。そこで、搾乳や機材の洗浄を中心に、酪農分野におけるATP検査の利用方法(採材部位、方法)や評価基準値の設定について検討し、衛生的な飼養管理のために効果的な利用方法を構築していただきたい。 | |
| 解決希望年限 | ①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内 |
| 対応を希望する研究機関名 | ①農業技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター |
| 備考 | |

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

| | | | |
|--|--|-------------|------------|
| 回答機関名 | 畜産技術センター | 担当部所 | 企画指導部企画研究課 |
| 対応区分 | ①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可 | | |
| 試験研究課題名 (①、②、④の場合) ATPふき取り検査を利用した効率的な乳質改善方法の検討 | | | |
| 対応の内容等 ご要望がありました、酪農分野におけるATP検査の利用方法(採材部位、方法)や評価基準値の設定については、以下の文献で、乳頭壁清浄度判定基準として500(RLU)という値が提案されており、今後ATPふき取り検査を実施する際はこの値を参考にすると良いと思います。 当所でも、今年度このATPふき取り検査を利用して、効果的な乳頭の清浄度管理手法について検討する予定です。その際に乳頭壁清浄度判定基準としての500(RLU)の妥当性についても検討する予定です。 | | | |
| 解決予定年限 | <input checked="" type="checkbox"/> ①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内 | | |
| 備考 ATP拭き取り検査による搾乳前乳頭壁性浄度の評価、日獣会誌、榎谷雅文(2013) 酪農家におけるATP迅速検査法の応用による搾乳衛生管理の向上に関する研究、北獣会誌、榎谷雅文(2017) | | | |